

29日 三遊亭円楽氏死去。

【十一月】5日 日航、一〇年までに十六路線廃止を発表。松本、静岡などから撤退。

8日 石原東京都知事、JOCに二〇年「夏季五輪」招致を表明。

10日 森繁久弥氏死去。

10日 一一年四月、北海道に野球独立リーグ設立構想発表される。

27日 人気マンガ「PIECE」五六巻、初版二八五万部に達する。

【十二月】2日 プロ野球マスターリーグ、不況でリーグ戦中止を発表。

5日 一〇年 サッカーW杯、組みあわせ決まる。日本はE組

16日 米国内でソニーが電子書籍サービス開始。

27日 前原国交相、新幹線羽田空港乗り入れに意欲。羽田のハブ化にらむ。JR東海は困惑。

石川弘義先生を悼む

わが国を代表する社会心理学者の一人として、幅広く活躍された石川弘義先生が昨年、肺炎のため亡くなられた。享年七十六歳であられた。日本余暇学会にとって先生は余人

計報：石川弘義・日本余暇学会顧問
(いしかわ・ひろよし=成城大名誉教授、社会心理学専攻) 09年12月30日、肺炎のため死去。76歳。葬儀は近親者で行い、偲ぶ会を2月14日午前11時、東京都新宿区西新宿2の7の2のハイアットリージェンシー東京で開く。



究の蘊蓄を傾けてくださった。その後は学会顧問として余暇研究の進展を見守っていかれた。

先生の出世作は『欲望の戦後史』(初版は一九六六年)である。解放された「欲望」が日本人の生活をリードする原動力となったという視点から先生は戦後の日本社会を見つめてこられた。先生はこの本を何度も改訂され、最後にお会いした時にも「もう一度書き直したい」とおっしゃっていたこ

とが忘れられない。一九七六年に先生を中核に若手(当時は私も十分若かった)の「娯楽好き」が集まって「日本人と娯楽研究会」というユニークなサークルを始めた。成城大の石川研究室に毎月のように集まって、余暇と娯楽を楽しく論じた成果は『余暇の戦後史』(一九七九年)として世に出た。先生を編者に、小生も一章を担当させてもらったこの本の発刊が端緒になって、わが余暇学人生がスタートするのである。

それから三十年余。余暇学研究はどこまで前進できたのだろうか。いずれそのうち、あの世という辺りでも石川先生に再会する時、私はどんな成果を先生にお示しできるだろうか。それまでは石川先生、永劫の余暇をお楽しみください。(藪田碩哉)

へんしゅうのあと

一月十八日、戦後を代表するマルチタレント、ミッキー安川氏が七十六歳で、肺炎のため死去した。横浜で行われた葬儀には、鳩山首相、石原都知事、原口総務大臣を始め、大物政治家、経済人、タレントが参列し、生前の交友関係の広さが示された。安川氏の言動は「毒舌」「過激」と評され、次第にテレビ、雑誌から追いやられ、晩年は横浜のラジオ日本での番組に限られていた。

安川氏の代表著作である「ふうらい坊留学記」は約五十万部といわれるベストセラー。一九五〇年代のアメリカ南部に単独渡航、四年間学び、働いた彼の経験を描いた作品だが、現在、国際政治や英語の専門家と呼ばれる人々の中に、この本に影響を受けた人が数多くいる。帰国後は、貿易会社を経て、日劇ミュージックホールのコメディアンとしてデビュー、ジャズ

歌手、作家、俳優、司会などをこなし、ワイドショー全盛期には元祖「突撃リポーター」として活躍した。芸能リポーターだけでなく、堪能な英語や人脈を活かし、海外の情報も少なかった時代にアメリカから、多くのレジャー、セックス、パイオレンスなど、高度経済成長期の大衆文化をリードした一人だ。ブームとなったローラーゲームのテレビ中継、ゴルフ番組の解説、人脈を活かして外国人スポーツ選手を招聘するエージェンツ、関東ではあまり知られていなかった「博多とんこつラーメン」による外食産業への進出、アメリカのサブプリメントブームに目をつけて輸入・・・まさに高度成長期の大衆文化発展に貢献した人であった。しかし安川氏自身は戦後の大衆文化に多大な貢献をしていることには気がぬかぬまま旅立ってしまった。ご冥福を祈ります。(山田)

日本余暇学会ニュース

韓国・余暇文化政策の専門家、劉震龍・乙支大学校教授

日本余暇学会を訪問

平成二十一年度国際交流基金文化人招聘事業によって、日本を訪問中の韓国・劉震龍(You, Jin Ryong ユ・ジンリョン)氏と日本余暇学会会員が一月八日、都内で意見交換を行った。

劉教授は、韓国・余暇文化学会副会長、乙支(ウルチ)大学校余暇デザイン学科教授(副学長)であり、長年にわたり韓国・文化観光部で文化観光政策を担当した。文化観光政策が専門の劉教授の訪日目的は「①文化・芸術による地域コミュ

ニティー振興の状況を視察する②文化施設(博物館、アートセンター、運営を視察する③芸術文化振興基金の助成金による芸術活動の振興について理解する④日本の文化・社会事情を視察し認識を深める」の四点である。

午前十時、桜美林大学四谷校舎において、劉教授と日本余暇学会の意見交換会が通訳の李氏を介して、始まった。午前中は余暇学会から藪田会長、辰巳、宮入、



劉教授(右)と通訳の李氏

第69号
日本余暇学会事務局
〒191-0016 日野市神明1-13-1 実践女子短期大学 生活福祉学科藪田研究室
Tel/FAX 042-584-5428
e-mail info@yokagakkai.jp
Home Page http://www.yokagakkai.jp/

略歴
劉教授 韓国・文化観光部(当時)で文化観光政策を担当(1979~2006年)、後に事務次官となり、2006年からは、乙支大学校余暇デザイン学科教授(副学長)として、韓国の文化観光政策の分野で同国を代表する専門家として活躍している。専門は、余暇産業に関する分析、文化フェスティバルの組織化、地域振興のための観光など。

山田各理事、国際交流基金からは横堀氏が参加した。まず、藪田会長より日本における余暇学、余暇教育、余暇産業の現状などの報告が行われた。これに対し劉教授から韓国の余暇産業、余暇教育の現状報告などが行われた。この中で乙支大学校に、同国で初めて「余暇デザイン学科」が設立されたことが報告された。これまでスポーツ、健康、福祉、教育などに分散してきた余暇教育・研究を、体系的に行うという計画が三年前から実現されているそうだ。この学部では体育・観光・芸術分野などの実践的余暇教育がなされているとのこと。日本の余暇研究者にすれば、なによりも「余暇」を名乗る大学の学科が誕生したことは、羨ましい話であった。また劉教授が副会長を務める韓国余暇文化学会は10年ほど前に設立され、当学会と同じ「余暇学研究」という研究誌を年三回程度発行しているそうだ。日韓の「余暇学研究」誌の交流が約束された。

劉教授によると、

「仕事好き」な韓国の国民性から、「余暇」という言葉は、国民にとってマイナスのイメージが強いそうだ。経済成長の結果、せつかく「仕事をしない時間」が増えているにもかかわらず、韓国民の多くは、その余暇時間にも仕事をすることを考えている人が多いらしい。余暇デザイン学科や余暇文化学会は、余暇を管理する能力を人々に育て、人を楽しませ、創造できる能力を育てることを目標にしているというのだ。劉教授によると韓国も日本同様に厳しい経済状況が続いているが、サービスマン業への労働人口の急速な移行に伴い、政策的に余暇産業への関心が強まっているそうだ。また韓国では、日本以上に急速に少子高齢化がすすみ、個人と社会の繋がりを維持し、高齢者の健康増進、医療費抑制のためにも余暇産業が注目されているのだ。だが実際には、韓国の余暇の過剰は下り坂のようだ。それは飲酒や電子ゲームの比重が高く、観光科や余暇文化学会のこれからの活躍が注目されている。

また劉教授、日本余暇学会の双方から、日本余暇学会と韓国余暇文化学会との協力体制

